

第5学年「図工」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○ 前学年で学んだことを生かして表現活動に取り組んでいる。
○ 楽しんで授業に取り組み、周りの友人と作品の良さを伝え合い、学び合う姿が見られる。
- 課題** ▼ 自分の興味のない活動について投げやりになってしまう場面が伺える。
▼ 「楽しい」だけではなく、造形的な美しさや良さに目を向けられる指導をしていく必要がある。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 活動に応じて材料や用具を活用する力。
- ◇ 感じたこと、想像したことなどから表したいことを見付け、形や色、材料の特徴を考えたしながら主題を表す力。
- ◇ 形や色の造形的な特徴を理解し、自分の言葉で表す力。（鑑賞）

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- めあてを具体的に提示し、その日のゴールを明確にする。
- 材料や用具の特徴が伝わるように素材や表現方法を比べて、表現の多様さを示す。

言語活動の工夫

- 造形的な見方を提示し、振り返りなどで形や色の特徴を言葉で表す機会を増やす。
- グループになって他者の作品の魅力を言葉で伝える。

ICT活用の工夫

- パワーポイントで情報を整理し、作業過程を分かりやすく表示する。
- 実演機を使って制作方法や制作ポイントを伝える。

課題解決力育成の工夫

- 「発見タイム」を設け、友達の仕事の良さや工夫を見付け、自分の制作に生かしていく。
- 自分のイメージを周りの友達や教員に共有しながら、共に考えていくように促す。

達成目標

- 材料や用具を活用し、表し方を工夫することができる。
- 自分の感覚や行為を通して表したいことを見つけ、表し方を考えて表すことができる。
- 造形的なよさや美しさを捉え、作品を鑑賞し、自分の言葉で表すことができる。